



## ～ ファストトラベル実現に向けた新たな取り組み ～ IT を活用した「予測待ち時間の表示」を開始しました。

関西エアポート株式会社は、関西国際空港の第1ターミナルビル4階（国際線出発フロア）およびWEBサイトで、国際線の各出発口の混雑状況（予測待ち時間）の表示を開始したことをお知らせいたします\*1。

これは、当社が取り組んでいる「ファストトラベル\*2」を一層促進するための取り組みで、各出発口の混雑状況をお客様にお知らせすることで、混雑の平準化が期待されます。このシステムは、PFM（Passenger Flow Management）を活用し、各所に設置されたセンサーにより列に並ぶ人数を認識・カウントして保安検査場の使用レーン数等を考慮した上で「保安検査場前の待ち列最後尾から出国審査場を通過するまでの予想待ち時間」を自動で計算・表示するものです。

関西エアポート株式会社は、今後も最先端技術を積極的に導入し、空港の利便性向上に努め、快適で新しい旅の体験をご提供いたします。

\*1 本プロジェクトは、関西エアポート（株）と航空業界の主要システムインテグレーターであるSITA、および人流計測システムの大手プロバイダーであるXovisとの共同プロジェクトです。

\*2 ファストトラベルとは、IATA（国際航空運送協会）やACI（国際空港評議会）が提唱する、空港での利用者の手続きをよりスムーズにすることで効率的なサービスの提供を目指す取り組みです。

○第1ターミナル国際線出発口に大型モニターを計13台設置

設置日：2018年5月18日（金）

設置物：80インチモニター 13台（一部55インチモニター採用）

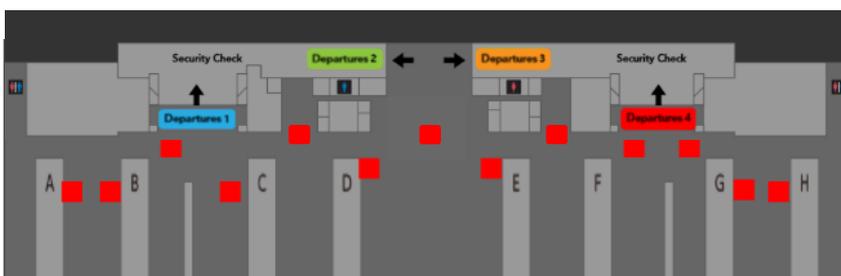


※チェックインが終わったお客様に対して、出発口1-4の混雑状況を直観的にご確認いただけるよう案内をしています

混雑表示  
基準



設置場所：第1ターミナル4階国際線出発フロア

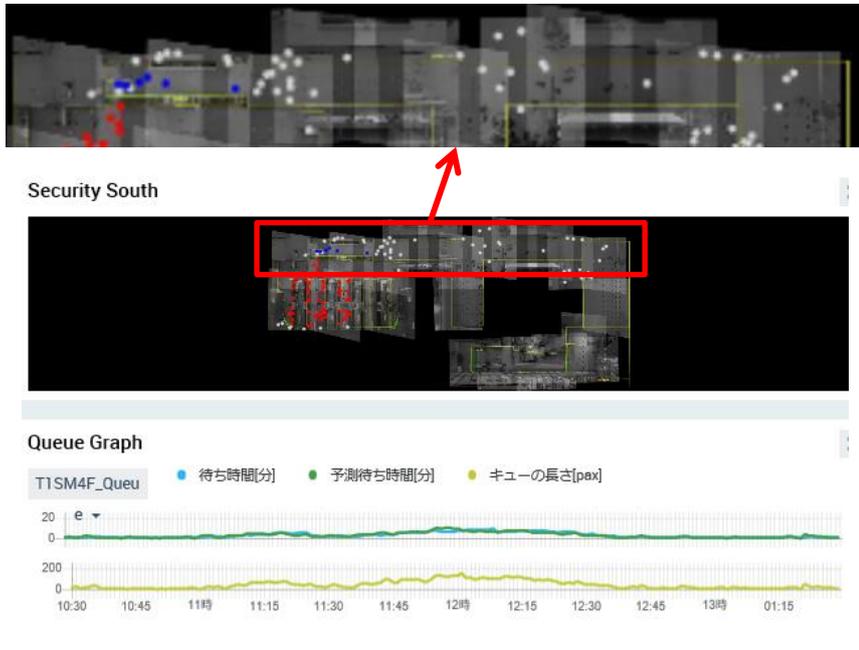


○WEB サイトでの表示



○PFM (Passenger Flow Management) システムとは

各所に設置されたセンサーにより、列に並ぶ人数を認識・カウントすることで、保安検査場や出国審査場の待ち時間や通過人数等を自動で計測するものです。その数値を基に、予測待ち時間も計算します。



**【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】**

関西エアポート株式会社  
 企画・管理部 広報・ブランディングチーム  
 Tel : 072-455-2201





関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: [www.kansai-airports.co.jp/](http://www.kansai-airports.co.jp/) をご参照ください。

#### 関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	株主	オリックス40%、 ヴァンシ・エアポート40%、 その他の出資者20% <sup>1</sup>
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO エマヌエル・ムノント		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

#### 関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO エマヌエル・ムノント		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



#### オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界40カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、36空港の開発・運営を行っています。同社の空港ネットワークを構成するフランス、ポルトガル（リスボンのハブ空港含む）、カンボジア、日本、ドミニカ共和国、チリ、そしてブラジルの空港には、合計で200社を超える航空会社が就航し、2017年の旅客者数は1億5,660万人にのびます。

ヴァンシ・エアポートは総合インテグレーターとして、1万2,000人のスタッフの専門知識と経験を駆使し、空港の開発・資金調達・建設・運営に当たっています。またその投資力、国際ネットワーク、ノウハウを生かして既存空港の運営と機能を最適化し、施設拡充や新規建設を行っています。

2017年の連結売上高は14億ユーロ、グループ全体の売上高は32億ユーロ（関連会社含む）に達しました。

詳細は [www.vinci-airports.com](http://www.vinci-airports.com) をご覧ください。

<sup>1</sup> 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構